

## N I E 実践報告

### 1 研究テーマ

課題解決に向けて自分の考えを表現できる子どもの育成を目指して  
～資料活用能力の向上を図る取組を中心に～

本校は、N I E実践校として、2年目となる。5月から全国紙、地方紙の3社の新聞購読を行っている。また、昨年度は、学力向上における地区研究指定を受け、上記テーマにて研究公開を実施した。新聞を資料として位置付け、これまでの新聞活用の方法を整理し、新しい活用方法を模索する中で、「児童の新聞活用」と「教師の新聞活用」の2つの観点をもって取組を進めた。

### 2 年間購読計画

N I E実践校として指定を受けいているため、1社につき4ヶ月、希望する配達月を選択して、購読することができる。南日本新聞については、個人的に購読している教師が多数いるため、それを活用した。

多忙な日々の中、じっくりと新聞を読めない日もあるため、記事を収集する際の工夫として、だれがどのような新聞記事を探しているか新聞を置いている近くに掲示し、新聞を読んだ職員が該当する記事を切り取り保存しておくこととした。



### 3 実践内容

(1) 学習活動としての新聞活用 ※ ○…成果 △…課題

#### 【6年生の取組】

ア 南日本新聞「ひろば」欄を活用した。[学活]

本校6年は、1学級13名のため、友だちの作品から学ぶ機会が限られている。南日本新聞「ひろば」欄には、様々な年代の意見・主張が掲載されている。特に「若い目」コーナーには、同年代の作文が記載されており、そこから多様な考え方や文章表現の仕方などを学ばせた。児童にとって、同年代の共感する気持ちや先輩からの励ましなど、貴重な作品となった。

- 『本当の最高学年とは』(馬根小6年)『優しく話そう』(大川小6年)では、学校のリーダーとして、下学年をリードしていくための心構えや接し方など学ぶことができた。
- 『中学校での目標』(北指宿中1年)では、中学校入学への不安が誰でもあるということ、3年後の入試に向けての意欲や部活動での楽しみがあるということなど知ることができた。本校児童が進学する中学校生徒の作文であったため、児童にとっても親近感のあるものであった。
- 同年代の作品があるため、作品から伝わる思いに共感できることが多かった。



#### 【5年生の取組】

|                       |                          |                     |
|-----------------------|--------------------------|---------------------|
| 鯛雲天にひろがり萩咲けり<br>水原秋櫻子 | いわし雲大いなる瀬をさかのぼる<br>飯田 蛇笏 | 鯛雲この一族の大移動<br>茨木 和生 |
|-----------------------|--------------------------|---------------------|

光村図書「国語五 銀河」



ア 新聞から秋らしい言葉を見つけ、季節の移り変わりや季節を表わした言葉、季節を感じる言葉に興味をもたせた。[国語]

国語の季節の言葉の学習「秋の空」で、教科書に紹介された3つの俳句を音読して情景を浮かべる学習をした。そこで、新聞を活用させることで、左記の秋の季節を題材とし、秋の雲を季語とした俳句だけでなく、四季折々の行事・現象・風物などを表す様々な季節の移り変わりを表した言葉(季語)を見つけ発表した。日頃、家庭で新聞を購読していない児童も、友達と協力して進めることで、意欲的に取り組むことができた。

- 児童が自らが新聞を手取ることで、秋という季節を意欲的かつ多面的にとらえることができた。
- 新聞を活用することで、「花冷え」など、児童が日常生活ではあまり触れることのない言葉にも、語彙を広げることができた。
- 鯛雲はどんな雲で、どんな気象条件のときに見られるのか、5年理科の「天気の様子」とも関連させながら学習を進めることができた。天気の様子については、児童にとっても身近な現象であり、他の季節への移り変わる時の言葉でもある。自主的に友達に紹介する姿が見られた。

#### 【4年生の取組】

ア 「夏休み新聞」「冬休み新聞」の作成を行った。[国語][社会]

夏休み・冬休みの出来事を新聞形式でまとめさせた。割り付け、見出し、写真の掲載など、実際の新聞を参考に作成させた。冬休みは、夏休みに作成した友だちのよいところをまねて作成した児童もいた。

- 夏休み・冬休みの思い出・出来事をランキングにし、絵や写真を掲載するなど、児童なりの工夫が見られた。
- △ 文字の大きさ、内容など個人差が大きいため、新聞を活用した指導が必要である。



イ 『アップとルーズで伝える』と『仕事リーフレットを作ろう』で新聞を活用した。[国語][社会]  
『アップとルーズで伝える』では、物事を伝えるときに、焦点を絞って表現する「アップ」と全体を捉えて表現する「ルーズ」があることを学習し、新聞に掲載されている写真が「アップ」と「ルーズ」どちらに当てはまるのか提示させ、記事内容の効果について読み取らせた。そして、その写真を自分なりに説明させたり、新聞づくりに活用させたりした。『仕事リーフレットを作ろう』では、働く人に取材したり、インターネットで調べたりして、仕事の内容などを写真と文章で伝える「仕事リーフレット」を作成した。その際、児童は『アップとルーズで伝える』で学習したことを活かして写真を選択していた。



- 前単元の「アップとルーズで伝える」で学習したことを生かして、仕事リーフレットを作成する際の写真掲載の参考とし、写真と文章を上手に組み立てたりすることができるようになった。
- △ リーフレットの内容によっては、説明する相手に応じて形態を工夫することが必要である。

ウ 台風の進路予想と影響を確認した。[理科]

本年度、鹿児島県に接近した台風に関連した記事を中心に扱った。5年理科の単元「台風と天気の変化」で、台風の進路予想を行い、実際の進路と比較させた。また、台風による県内への影響を確認させた。関連して気象衛星ひまわりの打ち上げの記事についても扱った。教科書を通して学んだことと実際に結びつけることで、児童は台風についての理解を深めることができた。併せて、災害に対する備えや情報活用の重要性について学ぶことができた。



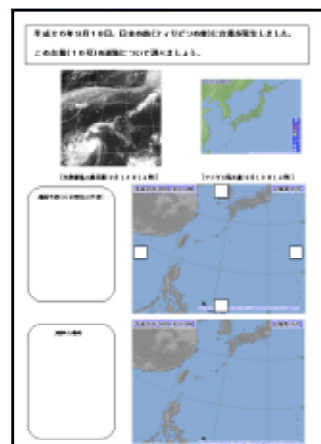
「台風による被害」  
南日本新聞 H26.10.6

「台風による被害」  
南日本新聞 H26.10.10

「進路予想」  
南日本新聞 H26.10.10

「台風から身を守るために」  
南日本新聞 H26.9.1

- インターネットでは、台風の位置情報や衛星写真(雲の様子)を調べ、今後の雲の動きを予想させ、実際の動きと比較させた。新聞とインターネットの併用により、台風情報をいろんなツールから得ることができた。
- 台風被害の一つとして、農作物の被害が挙げられるが、新聞記事を読むことによって、自分たちの住む指宿では、カボチャやソラマメが収穫時期にあり、それが被害にあったしまったこと、同じ県内の種子島では、サトウキビの被害が大きかったことなど、身近な情報を得ることができた。また、教科書には記載されていない観光への影響も記事となっていた。新聞記事を活用することにより、より身近で具体的な情報や、新しい知識を得ることができた。
- 台風情報だけでなく、台風に関する安全対策についての記事を扱った。安全対策に関する内容はもちろん参考となったが、毎年、台風の影響が大きい本県ならではの記事が新聞には掲載されていることに気付かせることができた。
- △ 台風による被害を扱う際、実際に被害にあった家庭や被災に合わせた方の名前など、配慮する必要がある。
- △ 進路予想については、単元を扱う時期と台風接近の時期が合えば、リアルタイムで授業を通した扱いができるが、時期がずれた場合には過去の情報で行う必要がある。



「台風の進路」ワークシート



- エ 気象データの比較と気候に関する記事を紹介した。[理科]  
4年理科の単元「天気のようにすと気温」で天気と気温の関係について学習した。雨の日が多く感じられた今年の8月に注目し、気象庁のホームページに掲載されている今年と昨年の気象データを比較させた。その結果、今年の夏(8月)が昨年と比べると実際に日照時間が短く、降水量が多いことが確認できた。

そこで、新聞に掲載されていた関連記事を児童にいくつか紹介した。児童は、8月の日照時間についての記事が新聞に掲載されていたこと、農作物(米の品質や収穫時期)への影響があることなどを知ることができた。

- 気候の変化だけでなく、日照時間が農作物にどのような影響を与えるのか具体的に知ることができた。  
○ 教科書にはない、その年の最新の情報を知ることができた。



「8月 日照時間最小」

南日本新聞 H26.9.2

- オ 天体観測への関心を高める記事を紹介した。[理科]

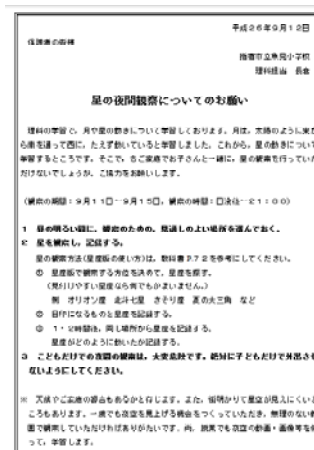
天体関係(自然現象など)では、珍しい現象、今期を逃すとしばらく見られないものなどがある。今年度は、皆既月食を観測できる年であり、その一ヶ月前から記事が記載されていた。月の観察を行う4・6年生を中心に記事の紹介を行った。夜間の観察になるため、注意事項等、保護者向けの文書も配布した。



「十六夜のスーパームーン」  
南日本新聞 H26.9.10



「八日夜に皆既月食」  
南日本新聞 H26.10.6



天体観測の保護者向けの依頼文書

- 新聞記事を提示することで、「いつ」「どこで」「何が」「どのようにして」と内容を明確に伝えることができた。  
○ 自然現象など、機会を捉えて事物を紹介するのに、新聞記事は写真や図でわかりやすく説明されているため、扱いやすく、写真や記事の大きさ、掲載の工夫によって世間の関心が高まっていることにも気づくことができた。

## 【家庭学習・その他】

- ア 新聞記事をもとにした感想文を作成した。

夏休みと冬休みの自由課題として、新聞記事を扱う課題を提示した。まず、児童に興味を引く新聞記事を見付けさせた。次に、その記事についての考えや意見を児童にもたせ、保護者と話をする場を設定させてもらった。そして、最後に記事に対する感想をまとめさせた。新聞を未購読の家庭には、学校で購読中の新聞から記事を提供した。

- 小学生にとって難しい記事も親子で取り組んだことで、記事の内容読解の手助けとなった。  
○ 選択した記事はそれぞれであった。長期休業中の課題としたため、記事探しは長期間に渡った。その間、様々な出来事や人物、世の中の動き等、新聞を通して、多くの情報を得ることとなった。マスメディアとしての新聞の特色を実感できる機会となった。

※ よむのびコンクール(平成25年度)3年の部「一席」受賞 4年の部「一席」受賞  
よむのびコンクール(平成26年度)3年の部「二席」受賞 4年の部「二席」受賞  
よむのびコンクール(平成26年度)学校賞受賞(コンクール参加100%)

- イ 委員会活動で記事を紹介した。

放送委員会の児童が、最新のニュースや全児童の興味・関心を引く記事を選び、朝の時間に放送で紹介する。話題を提供し、他の児童が「読んでみようかな」と興味を持つように低学年でも分かりやすい身近な話題を選択するように心がけた。

## (2) 学習環境としての新聞活用

- ア 南日本新聞「かお」コーナーを掲示した。

南日本新聞の「かお」で紹介される人物に焦点を当て掲示した。地域の人のことを知る。また、キャリア教育の視点から職業を知る。さらに、生き方に感銘し、将来の夢をもたせるための手立てとした。

- イ 特集コーナーを設置した。

始業式に登校してきた子ども達が3学期への意欲を高めることができるよう設営を工夫した。子どもが興味をもつロボット、プリンセスの話題やクイズ、目標をもって頑張る子ども達の記事、世界の子どものことなど、様々なジャンルの記事を紹介できるよう記事を選択した。



地元特産品の記事、農業に携わる人の記事などを家庭科室に掲示した。家庭科の学習で、地産地消を意識した一食分のメニューを考える際の参考とした。旬の食材や栄養バランス、無理のない予算、自分の食べたいものなどを考えて作成したメニューは、給食のメニューとして提案した。給食センターの栄養士にも助言をもらい、実際に児童が考えたメニューが本市の給食に出された。このことは、南日本新聞の記事に掲載された。